

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和5年第10週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和5年第10週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和5年第10週（令和5年3月6日から令和5年3月12日まで）

第10週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）インフルエンザ 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は17.05人と前週（12.23人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.08人と前週（4.59人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.38人と前週（0.51人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

今週のトピックス

“マスクの着用は個人の判断が基本に！”について取り上げました。

新型コロナウイルス感染症対策の一環として行われていた「マスク着用」の考え方が、令和5年3月13日から見直されました。従来は、屋外では原則不要、屋内では原則着用とされていましたが、今後は個人の判断が基本となります。ただし、周囲の方に感染を広げないために、特に医療機関への受診時や面会時、高齢者施設を訪問する時などは、常にマスクの着用をお願いいたします。なお、高齢者や基礎疾患を有する方、妊婦など重症化リスクの高い方が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大時に混雑した場所に行く時には、御自身を感染から守るためにマスクの着用が推奨されます。

川崎市内においてはインフルエンザの流行がみられています。必要に応じてマスクを着用しましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

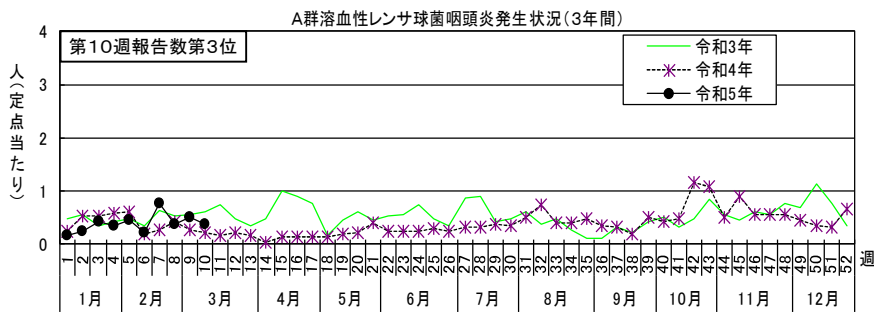
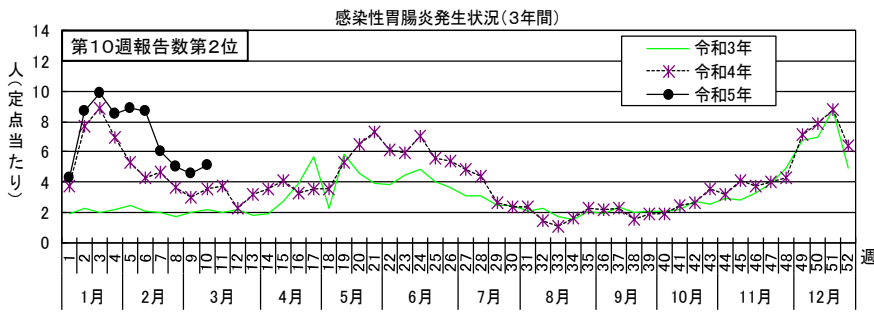
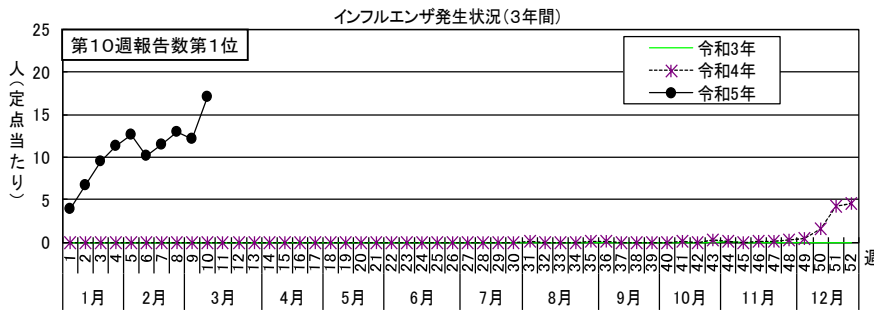
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年3月6日（月）～令和5年3月12日（日）〔令和5年第10週〕の感染症発生状況

第10週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 感染性胃腸炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は17.05人と前週（12.23人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.08人と前週（4.59人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.38人と前週（0.51人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

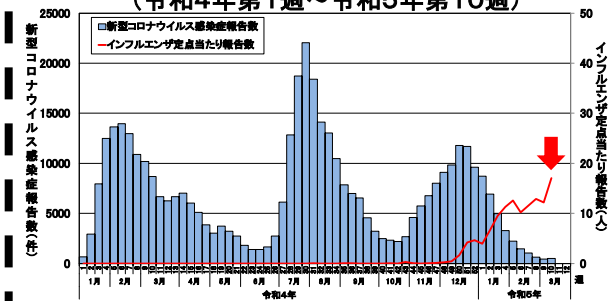


マスクの着用は個人の判断が基本に！

新型コロナウイルス感染症対策の一環として行われていた「マスク着用」の考え方が、令和5年3月13日から見直されました。従来は、屋外では原則不要、屋内では原則着用とされてきましたが、今後は個人の判断が基本となります。ただし、周囲の方に感染を広げないために、特に医療機関への受診時や面会時、高齢者施設を訪問する時などは、常にマスクの着用をお願いいたします。なお、高齢者や基礎疾患を有する方、妊婦など重症化リスクの高い方が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大時に混雑した場所に行く時には、御自身を感染から守るためにマスクの着用が推奨されます。

川崎市内においてはインフルエンザの流行がみられています。必要に応じてマスクを着用しましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザ発生状況(令和4年第1週～令和5年第10週)



マスクの着用が効果的な場面

医療機関を受診する時

医療機関や高齢者施設などを訪問する時



混雑した電車やバスに乗車する時*

重症化リスクの高い方が新型コロナウイルス感染症の流行期に混雑した場所に行く時



*おおむね全員の着席が可能なものを除く。